



KONICA MINOLTA

## 製品安全データシート

整理番号 : 1996067024  
 作成 : 1997/04/08  
 改訂 : 2004/08/01

製品名 : デジタルスタジオ用発色現像液 DS-CDS パートB

## 1. 化学物質等及び会社情報

製品名 : デジタルスタジオ用発色現像液 DS-CDS パートB

商品コード : GLXW

会社名 : コニカミノルタフォトイメージング株式会社

住所 : 〒163-0512 東京都新宿区西新宿1-26-2

担当部門 : イメージコミュニケーション事業部 IPSグループ  
(TEL03-3349-5315, FAX03-3342-7360)作成部門 : コニカミノルタビジネスエキスパート株式会社  
社会環境統括部 品質環境安全部  
(TEL042-589-8167, FAX042-589-8071)

急性中毒の恐れがある場合の緊急連絡先 : (財) 日本中毒情報センター

中毒110番 (大阪) 0990-50-2499 (ダイヤルQ2) 365日 24時間  
 (つくば) 0990-52-9899 (ダイヤルQ2) 365日 9時~21時

## 2. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

化学名(成分)	含有量 wt%	PRTR法	官報公示整理番号		CAS. No.
			化審法	安衛法	
水	90~ 99	対象外	対象外	対象外	7732-18-5
有機酸	1~ 10	非該当	既存	化審既存	----
p-フェニレンジアミン誘導体発色現像剤	1~ 10	非該当	既存	化審既存	----

(\* : 安衛法通知対象物質 PRTR法 : 化学物質管理促進法)

## 3. 危険有害性の要約

人の健康に対する有害な影響 :

(誤飲) 人体への毒性影響は少ない。

(吸入) 蒸気、ミストを吸入することにより、鼻腔や気管の粘膜を刺激することがある。

(目) 眼、粘膜を刺激することがある。

(皮膚) 皮膚を刺激することがある。

(長期) くり返し接触することにより、アレルギー性の皮膚炎を起こすことがある。IARC, NTP, ACGIH および日本産業衛生学会の発がん性の分類リストに、発がん性物質として記載されている物質は含有していない。

物理的及び化学的危険性 : 特になし

化学物質等の分類 : 分類の基準に該当しない。

## 4. 応急措置

吸入した場合 : 異常を感じた場合は空気の新鮮な場所に移り、症状が持続する場合は医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合 : 直ちに15分以上流水でよく洗う。汚染された衣服を脱ぐ。医師の診察を受ける。

目に入った場合 : 直ちに15分以上、流水でよく洗う。速やかに医師の診察を受ける。

飲み込んだ場合 : 直ちに水で口をすすぎ、コップ1~2杯の水を飲ませる。医師の指示があった場合のみ吐かせる。医師の診察を受ける。意識のない場合は口から何も与えてはならないし、無理に吐かせようとしてはならない。

## 5. 火災時の措置

消火剤 : 製品自身は不燃性。周囲の物質に応じて選択する。

特定の消火方法 : 消火の際は自給式呼吸器具及び完全保護具を着用する。周辺火災の消火に務め、危険でなければ容器を安全な場所に移す。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 保護具を着用する (8章参照)。

除去方法 : 砂又は他の不燃性吸収剤で吸収し、空容器に回収する。



KONICA MINOLTA

## 製品安全データシート

整理番号 : 1996067024

作成 : 1997/04/08

改訂 : 2004/08/01

製品名 : デジタルスタジオ用発色現像液 DS-CDS パートB

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い :

(技術的対策)

子供の手の届かない場所に置く。  
皮膚、粘膜、着衣に触れたり、目に入らないようにする。  
適切な保護具を着用する(8章参照)。

(注意事項)

(安全取扱い注意事項)

取扱い後に手などをよく洗う。  
通常使用する場合には、火災防止の為の特別な予防措置は必要なし。  
取扱いは十分な換気の下で行う。

手などの洗浄および作業台、手袋などの清掃に中性または弱酸性の洗剤を用いると、皮膚反応を最小限に抑える効果がある。

保管 :

(適切な保管条件)

容器は密閉し、乾燥した冷暗所に貯蔵する。

## 8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 : 取扱いは、局所排気装置を使用するか、又は、換気の良い場所で行う。

許容濃度 :

化学名(成分)	安衛法 管理濃度	日本産業 衛生学会	TWA	ACGIH STEL
有機酸	—	未設定	未設定	
p-フェニレンジアミン誘導体発色現像剤	—	未設定	未設定	

保護具 :

(呼吸器の保護具)

臭気が気になる場合は、活性炭入り簡易防じんマスクを着用する。

(手の保護具)

不浸透性保護手袋。

(目の保護具)

ゴーグルまたは安全メガネ

(皮膚及び身体の保護具)

通常の条件下では必要なし。

## 9. 物理的及び化学的性質

(形状)

液体

(色)

微黄色透明

(臭い)

亜硫酸ガス臭

(pH)

&lt;1.0

(沸点)

約100 °C

引火点 :

引火性なし

爆発特性 :

特になし

蒸気圧 :

約17mmHg (20°C)

蒸気密度 :

約 0.6 (空気=1)

蒸発速度 :

約 1.0 (水=1)

密度 :

0.95~1.05

溶解性 :

水に易溶

## 10. 安定性及び反応性

安定性・反応性 :

通常の手扱い条件では安定である。

避けるべき材料 :

特になし

危険有害な分解生成物 :

一酸化炭素、二酸化炭素



## 製品安全データシート

整理番号 : 1996067024  
作成 : 1997/04/08  
改訂 : 2004/08/01

製品名 : デジタルスタジオ用発色現像液 DS-CDS パートB

---

## 11. 有害性情報

製品 :

急性経口毒性 : LD50: >2000mg/kg[ラット]

皮膚感作性 : Sensitizer

成分 :

有機酸

急性経口毒性 : LD50: 2480mg/kg[ラット], LD50: 400mg/kg[マウス]

皮膚刺激性 : Corrosive[ウサギ]

皮膚感作性 : None 0%[モルモット]

p-フェニレンジアミン誘導体発色現像剤

急性経口毒性 : LD50: 394mg/kg[ラット]

眼刺激性 : Corrosive[ウサギ]

皮膚刺激性 : None P. I. I. =0[ウサギ]

皮膚感作性 : Extreme 100%[モルモット]

---

## 12. 環境影響情報

成分 :

有機酸

残留性/分解性 : 良分解性

生態毒性 : 245ppmで1日後に細胞数の50%が減少する。(20°C *Chlorella vulgaris*)

p-フェニレンジアミン誘導体発色現像剤

生態毒性 : 96hrLC50: 6.4mg/l [*Pimephales promelas*], 96hrLC50= 0.3mg/l [*Daphnia magna*],

0.4mg/l 影響なし [*Selenastrum capricornutum*], 4.0mg/l, 40.0mg/l 阻害 [*Selenastrum capricornutum*]

---

## 13. 廃棄上の注意

廃棄方法 : 水質汚濁防止法 (生活環境項目) 及び下水道法 (下水の排除の制限) に該当するので河川、下水等にそのまま排出しない。自社で排水処理を行わない場合は産業廃棄物処理業者に依頼する。原液は特別管理産業廃棄物に該当するので特別管理産業廃棄物処理基準に従う。

---

## 14. 輸送上の注意

輸送上の注意 : “7章 取扱い及び保管上の注意” の記載による。

---

## 15. 適用法令

消防法 : 非該当

毒劇法 : 非該当

安衛法 : 非該当

化審法 : 非該当

PRTR法 (化学物質管理促進法) : 非該当

---

## 16. その他の情報

参考文献 :

化審法の既存化学物質 安全性点検データ集 (化学品検査協会)

国際化学物質安全性カード 日本語版 (化学工業日報社)

環境化学物質要覧 (環境庁環境化学物質研究会)

新版危険・有害性便覧 (中央労働災害防止協会)

RTECS (U.S. DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICE)

記載内容は現時点で入手できた情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関してはいかなる保証をなすものではありません。危険有害性の評価は、今後の新しい知見で改訂されることもあります。また、記載事項は当製品についての通常の実施を対象にしており、特別な取扱いや組み合わせの場合は用途・用法に適した安全配慮の上お取り扱い願います。